

高等部作業学習（レザー班） 学習指導案

日時	令和5年**月**日（*） 9：40～12：15	場所	特別棟1階作業室
指導者	茂木 直美（T1）、****（T2）		
単元名	「ネームホルダーをつくろう～即売会に向けて～」		
単元設定 の理由	本作業班は、高等部*年生4名（男子1名、女子3名）、*年生4名（男子3名、女子1名）、計8名で構成されているが、感染症対策として、学年ごとに作業教室を分け、少人数での作業形態となっている。コミュニケーション面では、自分から教師や友達に積極的にかかわることを好む生徒が多いが、状況に応じた話し方や、対応の仕方には課題が見られる。また、準備や片付けを率先して行うことができる、口頭による指示を理解して作業することができる生徒もいる一方で、一定時間集中して作業に取り組むことが難しかったり、一つ一つの工程において教師の支援が必要であったりと、生徒の実態は様々である。これまでの学習では、作業に取り組む際に相応しい態度面（あいさつ、返事）、報告する際のポイント（相手の顔を見る、聞こえる声、正しい言葉遣い等）、技能面（道具を正しく扱い、手元をよく見て安全に作業する等）を中心に学習し、自分からあいさつや返事、報告を行うなど、働く場に相応しい態度で学習に取り組むことができるようになってきた。また、パステケースづくりでは、一つの製品を生徒一人一人が仕上げることで、「刻印打ち」、「色刺し・色塗り」、「トコ面処理」、「レザーコート」、「接着」、「菱目打ち・ハトメ付け」、「糸縫い」、「コバ処理・仕上げ」と、製品が出来上がるまでの一通りの工程を経験し、見通しをもって作業を進めることができるようになった。 本単元では、特別支援学校学習指導要領高等部〔職業〕1段階の内容〔職業分野〕A職業生活より、ア(イ)意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること、(ウ)作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むことを踏まえて設定している。これまでは製品が完成するまでの全工程を一人で行ってきたが、即売会に向けて効率よく製品づくりを行うために、分業制を取り入れる。誰がどの工程を担当するのかを相談して決めることで、自分が行う作業に見通しや責任感をもち、主体的に取り組むことができるのではないかと考えた。また、作業を分担し、一つの製品を完成させることで、個々の実態に合った作業ができるとともに、みんなで協力して製品をつくり上げたという達成感をもつことができ、作業意欲の向上にも繋がると考えた。就労する上で必要なあいさつや返事、報告といった場に応じた態度についての定着を図りながら、生徒同士のかかわりを多く設定することで、お互いに協力したり、自分から相談したりするコミュニケーションの力も高めることができると考え、この単元を設定した。 指導にあたっては、責任をもって作業に向かう態度と自信を身に付け、集中して取り組むこと、時と場に応じたコミュニケーションが取れることに重点を置いている。そのために、教師は見守りの時間を多くし、友達に報告したり、依頼したりする場面を設定する。また、作業や報告の様子をタブレットで撮影し、自分や友達の姿を確認しながら振り返ることで、個々の良い点や課題点に気付けるようにする。これらの指導を通して、基本的なコミュニケーションの大切さや仲間と協力して働くことの良さを知り、日常生活に生かせるようにしていきたい。		
単元の 目標	・ 担当する作業工程が分かり、見本を意識して製作することができる。 (知識及び技能) ・ 時と場に応じた正しい言葉遣いや態度で、報告をしたり、受けたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・ 役割を分担し、協力して販売する製品を完成させようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)		

単元の 評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・担当する工程を理解し、必要な道具を準備している。 ・道具を正しく安全に扱い、見本を意識して製作している。		・正しい言葉遣いや態度で、報告をしたり、受けたりしている。 ・作業の終わりごとに忘れずに報告し、点検を求めている。		・見本通りにできているかを確認してから、次の工程担当者へ製作物を渡そうとしている。 ・分からないことを友達に相談したり、正しいやり方を伝えたりしようとしている。	
単元における生徒 実態及び 個別目標	生徒	単元における生徒の実態		単元における個別目標		自立活動の 目標
	A	・一通りの作業工程や道具の使い方を理解し、正確に作業を進めることができる。 ・報告や確認を忘れずに行うことができるが、照れてしまい相手を見て話すことは苦手である。 ・班長として準備や片付けを自分から進んで行ったり、友達を手伝ったりすることができる。		・担当する工程を理解して、見本通りに製作することができる。 (知識及び技能) ・場や相手の状況を見て、報告をしたり受けたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・友達に自分から正しいやり方をアドバイスしようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)		教師や友達と 言葉のやりとりを 楽しむことができる。
	B	・指先を使った細かい作業は苦手だが、一通りの作業工程と道具の使い方は理解している。 ・報告や確認を忘れずに行うことができるが、慣れない場や相手だと、下を向いてしまったり、極端に声が小さくなってしまったりする。 ・意欲的に作業に取り組むが、自分から聞いたり、相談したりすることは苦手である。		・担当する工程を理解し、正しい手順で製作することができる。 (知識及び技能) ・相手に伝わる声の大きさを、報告をしたり受けたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・困ったときに、自分から教師や友達に相談しようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)		声の大きさを 意識して、相手に 伝わる声で話すこ とができる。
	C	・作業内容は分かるが、早く工程を進めたい気持ちが強く、丁寧に作業することが難しい。 ・報告や確認を忘れてしまうこともあるが、言葉かけて気付き、報告することができる。 ・初めに役割分担を確認することで、協力を意識して作業に取り組むことができる。		・必要な道具を自分で準備し、見本をよく見て製作することができる。 (知識及び技能) ・担当作業の終わりごとに、忘れずに報告することができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・自分が担当する工程が終わっているかを確認してから、次の担当者に渡そうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)		体験したこと がいつのことなの かを、相手に伝 わるように話すこ とができる。
	D	・刻印打ちの工程が得意で、道具を正しく扱い作業することができる。 ・気持ちが学習に向かないときは、報告や確認をせずに、自分の好きなように作業を進めてしまうことがある。 ・友達と協力して準備や片付けに取り組むことができるが、自分の分担を終わらせずに、他の仕事を手伝おうとすることがある。		・必要な道具を自分で準備し、見本に合わせて刻印を打つことができる。 (知識及び技能) ・指示された作業が終わったタイミングで、自分から報告をすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・教師と一緒に見本通りにできているかを確認してから、次の担当者に渡そうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)		場や相手に応 じたコミュニケー ションを取ること ができる。

単元の指導計画と評価(2学期 84 時扱い) 本時は第 40 時	次・単元名	時	学習内容・活動	評価規準・評価方法	関連教科等
	1 「販売に向けて製品をつくろう」	1～28	・即売会に向けて製作する製品を決める。 (パスケース、ネームホルダー) ・制作中のパスケースを完成させ、ラッピングまで行う。	・活動内容や流れを理解している。 (知識・技能)[観察・ワークシート] ・相談して販売する製品を決めたり、パスケースを完成させたりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)[観察]	・職業 ・家庭 ・自立活動
		28～56 本時は 40/56	・ネームホルダーの作業工程を知る。 ・見本写真の中から製作するデザインを選ぶ。 ・刻印打ちを全員で行う。 ・作業分担を相談して決める。 ・自分が担当する作業工程に取り組み、協力してネームホルダーを完成させる。 ・自分の役割に責任をもって作業に取り組む。 ・販売準備を行う。	・担当する作業工程が分かり、必要な道具を自分で準備し、見本通りに製作している。(知識・技能)[観察・ワークシート] ・時と場に応じた正しい言葉遣いや態度で報告や依頼をしている。 (思考・判断・表現)[観察・ワークシート] ・役割を分担し、協力して販売する製品を完成させたり、販売準備をしたりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)[観察]	
	2 「レザー製品をつくろう」	28	・これまでの作業学習で得た知識や技術を生かして、自分の力でできるレザー製品を考え、製作する。	・友達に教えたり、自ら作業を進めたりして、これまでの学習を生かしてレザー製品を製作しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)[観察]	・職業 ・家庭 ・自立活動

〔本時の指導〕

1 目標

(1) 全体目標

・時と場に応じた正しい言葉遣いや態度で、報告をしたり、受けたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 個別目標

A：場や相手の状況を見て、報告をしたり、受けたりすることができる。

B：相手に伝わる声の大きさで、報告をしたり、受けたりすることができる。

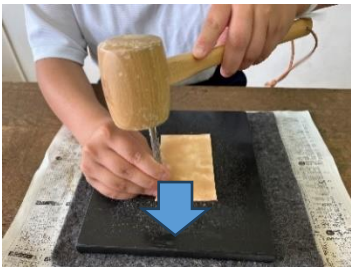
C：担当作業の終わりごとに、忘れずに報告することができる。

D：指示された作業が終わったタイミングで、報告することができる。

2 展開

※形態の表記は 全体：全、個別：個

形態時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て(各Tの役割等) ※評価は□で囲む
9:40 個 (10)	1 授業準備をする。 (1) 作業に必要なものを準備する。 (2) 作業日誌を記入する。	・準備物の場所をあらかじめ伝えておき、教室に着いたら自主的に準備ができるようにする。 ・作業準備を忘れていた生徒がいた際には「〇〇さん、道具の準備をお願いします」と言葉かけする。 ・身だしなみチェックは、生徒自身がチェックしたものを再度確認し、

	・身だしなみチェック ・作業内容 ・個別目標	即時に評価するとともに、必要に応じて鏡を見て整えるように促したり、改善点を伝えたりする。 ・前回の反省を確認し、自分の課題を意識して個別目標を記入できるように言葉かけする。 ・一人で記入することが難しい生徒には、目標を選択肢で提示したり頑張っしてほしいことを伝えたりして、教師と一緒に目標を決め、作業日誌に記入できるようにする。 ・記入が終わったら、作業日誌を黒板に貼りにいくよう促す。
9:50 全 (5)	2 朝礼を行う。 ① 始めのあいさつ ② 出席確認 ③ 大きな声で言おう ④ 目標の確認 ⑤ 先生の話 〔目標〕 見本をよく見て作業しよう 正しい言葉づかいで報告しよう	・T1は、全員の準備や姿勢が整っているかを確認し、班長に朝礼を始めるように言葉かけをする。 ・T2は、Dに「班長さんをよく見てあいさつをしましょう」など、個別の言葉かけを行い、活動に気持ちが向くように支援する。 ・「大きな声で言おう」では、作業時に必要なコミュニケーションを自発的にできるように、仕事に役立つ言葉を全員で練習する。 ・班長が全体目標を読み上げながら確認することで、全員が目標を意識できるようにする。 ・T1は、作業工程の役割分担と報告の流れを黒板に提示し、生徒が見通しをもって自分の作業に取り組めるようにする。 ・作業を始める前に、報告するときは「相手の名前を言ってから」、「正しい言葉遣いで」、報告を受けるときは「手を止めて相手を見る」などの約束を確認し、正しい言葉遣いや態度で報告をしたり、受けたりできるようにする。
9:55 個 (50)	3 作業を始める。 (1) 前半の作業を始める。 【刻印打ち】担当D ・見本写真を見ながら、見本通りに刻印を打つ。  【色刺し】担当A	・T1は班長に作業の開始を伝えるように促す。 ・T1は主にC、T2は主にDを支援する。 ・準備ができたなら担当の教師に報告し、点検を受けるようにする。 ・T2はDに手順表を見せながら、「必要な道具を準備しましょう」と言葉かけをする。 ・DやCが準備後の報告を忘れて作業を始めてしまったときには、「〇〇さん、準備ができたなら何をしますか」と言葉かけをして、自分から報告できるようにする。 ・手順の中で分からないときには質問したり、作業が終わるごとに報告したりするなど、状況に応じたコミュニケーションを図れるようにする。 ・T2は、Dに見本の写真を見せながら、必要な模様の刻印棒の模様や数を具体的に伝え、自分で準備できるように支援する。 ・刻印打ちでは、刻印棒を真っすぐに持つことや、真上から木づちで

- ・見本を見ながら染料を準備し、刻印の中に筆で色を刺していく。



【色塗り】担当B

- ・革全体にタンポで色を塗る。



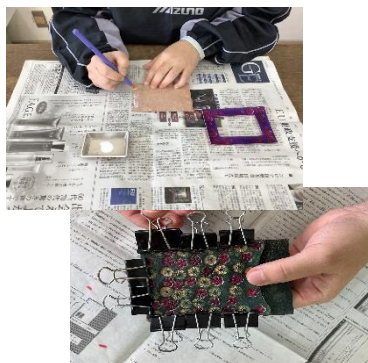
【レザーコート】担当B

- ・染料を乾かしてから、表面にレザーコートを塗る。



【接着】

- ・ボンドで革を張り合わせる。



打つことを意識できるように、姿勢を正して作業するように言葉かけする。

- ・T2は、Dが見本を見ずに作業を進めようとしたときには、一度手を止め、見本と一緒に確認してから進めるようにする。

- ・T1はAとBに、分からないことや困ったことがあったときには自分から質問や相談するように伝え、できるだけ自分たちで作業を進めることができるように言葉かけをする。

- ・色刺しや色塗りでは、染料の色見本を用意し、写真見本に近い色を見つけることができるようにする。

- ・Bの手が止まっていたり、不安そうな表情が見られたりしたときには、「Bさん、何か分からないことはありますか」と言葉かけをして、自分から教師や友達に相談するように促す。

- ・菱目打ちでは、真っすぐ目打ちができるように、教師が予め打つ場所に線を引いておく。

- ・糸縫いでは、製作物を固定する道具を使用し、手元を見て安全に作業できるようにする。

- ・Cが作業手順や報告のタイミングが分からず手を止めていたときには、手順表を見ながら一緒に確認するようにする。

- ・担当する工程が一つ終わるごとに、担当教師に報告し、点検を受けるようにする。

- ・T1とT2は、正しく報告ができたときは称賛し、改善点があればその場で伝え、正しく報告ができるようにする。

- ・点検の際は、よくできているところを称賛したり、更によくなるためのアドバイスをしたりしながら、作業への意欲が高めることができるようにする。

- ・点検が済んだら、出来栄に応じたシール(◎、○、△)を日誌のチェック欄に1枚貼り、次の工程担当者に報告して製作物を渡すように促す。

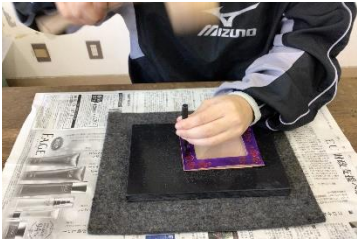
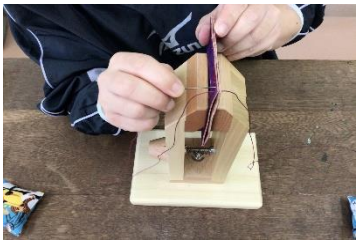
- ・報告を受けた次の工程担当者は、報告が正しくできたかを確認し、日誌のチェック欄にシール(◎、○、△)を貼ってから、製作物を受け取るようにする。

- ・T1は、報告の様子をタブレットで撮影したり、報告を受けた生徒に「今の報告の仕方はどうでしたか」と言葉かけをしたりして、友達のよかったところにも気付けるようにする。

- ・報告ができれば、次の製作物に取りかかるよう言葉かけする。

A：場や相手の状況を見て、報告をしたり、受けたりしている。

(思考・判断・表現) [観察]

	【菱目打ち】担当C ・目打ち棒を使って、糸縫いのための穴をあける。  【糸縫い】担当C ・針を2本使い、菱目に合わせて縫っていく。 	B：相手に伝わる声の大きさと、報告をしたり、受けたりしている。 (思考・判断・表現) [観察] C：担当作業の終わりごとに、忘れずに報告をしている。 (思考・判断・表現) [観察] D：指示された作業が終わったタイミングで、自分から報告をしている。 (思考・判断・表現) [観察] (全体) 時と場に応じた正しい言葉遣いや態度で、報告をしたり、受けたりしている。 (思考・判断・表現) [観察]
10:45 全 (10)	(2) 休憩をする。	
10:55 個 (55)	(3) 後半の作業を始める。 ・前半の続きから行う。	・班長の「作業を始めてください」の言葉かけで作業が開始できるようにする。 ・何をすればいいか分からなくなってしまった生徒には、「さっきの続きからやります」「どこまで進んだかな」などの言葉かけをして、自分から後半の作業に取り組めるようにする。
11:50 全 (10)	4 片付け・清掃をする。	・班長の「作業を終わりにしてください」の言葉かけで片付けに取り組めるようにする。 ・Dが途中で作業を終わりにできないときは、「また次の時間に続きからやりますよ」「楽しみですね」などの言葉かけをして、安心して作業を終わりにできるようにする。 ・T1は片付け・清掃分担を確認するように伝え、生徒がスムーズに動けるようにする。
12:00 全 個	5 振り返りと反省を行う。 ・作業や報告の様子を動画で確認する。	・片付け・清掃が終わったら、作業日誌と筆記用具を準備し、モニターに注目するように促す。 ・T1は、タブレットで撮影した作業や報告の様子をモニターに映し、

(10)	・作業日誌の記入	良かったところを称賛したり、改善すると更に良いところをアドバイスしたりして、今日の取り組みを全体で振り返ることができるようにする。 ・動画での振り返りをもとに、作業日誌に反省を記入するように促す。 ・T1とT2は、DとCに、日誌のチェック欄を見て、正しく報告ができたかを確認しながら記入するように言葉かけをする。 ・記入ができたら担当教師に報告するように促し、評価を記入するとともに、個別に良かったところを称賛したり、改善点を伝えたりして、次の目標につなげることができるようにする。
12:10 全 (5)	6 終礼を行う。 ①今日の反省 ②先生の話 ③終わりのあいさつ	・T1は、全員の姿勢が整っていることを確認し、班長に終礼を始めるように促す。 ・班長が一人ずつ指名し、全員が今日の反省を発表する。 ・T1は出来上がった製品を全体に知らせ、出来栄やそれぞれの作業への取り組みについて評価し、達成感や次への意欲をもてることができるようにする。 ・全員が班長に注目したら、あいさつをするように言葉かけをする。

【板書計画】

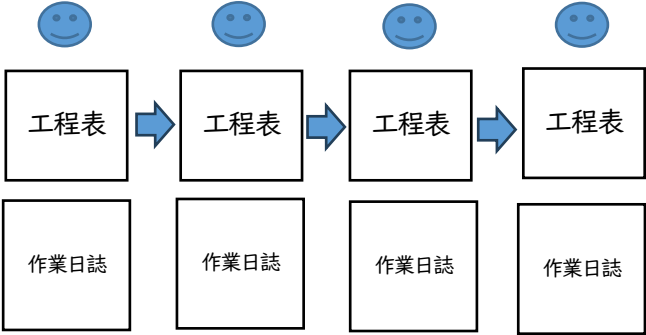
作業内容

「ネームホルダーをつくろう
～即売会に向けて～」

目標

見本をよく見て作業しよう
正しい言葉づかいで報告しよう

9:40～	作業準備 身だしなみ確認 日誌記入
9:50	朝礼
9:55～	作業①
10:45	休憩
10:55～	作業②
11:50～	片付け・清掃 日誌記入
12:10	終礼



【大きな声で言おう】

- ・朝のあいさつは「おはようございます」
- ・呼ばれたときは「はい」
- ・何かをお願いするときは「お願いします」
- ・教えてほしいときは「教えてください」
- ・教えてもらったときは「ありがとうございました」
- ・できたことを報告するときは「できました。確認をお願いします。」
- ・帰るときは「お先に失礼します」

報告するとき

- 1 相手の名前を言う
- 2 相手の目を見て
- 3 相手に聞こえる声で
- 4 正しい言葉づかいで

報告をうけるとき

- 1 呼ばれたら「はい」
- 2 手を止めて
- 3 相手の目を見て
- 4 正しい言葉づかいで

【配置図】

